

乙川小学校 校長だより

～思いやり つながり 感性の 輪を広げよう～

おもいやり
つな
な
か
い
の
か
わ
をひろげよう

令和 5年10月30日
半田市立 乙川小学校
発行責任者 木下稔章

〈上の写真は6年生が修学旅行で行った「外国人インタビュー」の様子〉

よよいよ授業に向けて、研究をしています。

今年度本校では、「児童の基礎学力の向上に向けた取組」を意識して、授業の方法について教職員で研究をしています。これまでにご紹介したように、「学びやすく集中しやすい学習環境」や「個に応じた個別最適な学び」を実現するために、どのような授業を行うとよいか、教師全員で意見交換をしながら改善を図っているところです。

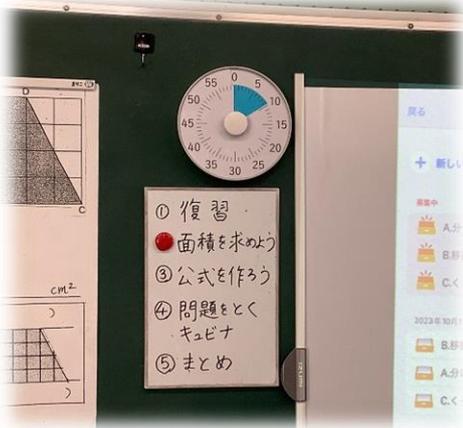
「学びやすく、集中しやすい学習環境」を実現する取組として、教室前の掲示物を極力減らして、視覚刺激を減らすことについては前回お知らせしました。その他に行っていることは、「児童の机上の整とん」です。机の上を整とんすることは、簡単そうですが、継続することが難しいことです。逆に、しっかり机上の整とんができると、集中して授業に臨めます。



「学びやすく、集中しやすい学習環境」に向けた取組は、その他に「視覚支援」の取組があります。人は、耳で聞くだけだとつい聞き漏らしてしまうこともあります。耳で聞いて理解することが得意な児童もいれば、目で見て確認することが得意な児童もいます。そこで、目で見て学習の流れを確認するための方法として、学習の流れを掲示する配慮を行っています。

左の写真は、1時間の授業の流れをホワイトボードに書いておき、今行っている活動にマークを付けて意識させる配慮です。さらには、タイムタイマーという色で時間の量を示す時計を活用して、1時間の授業時間があとどれくらい残っているか、または考える時間があとどのくらいあるかを目で見て判断ができるように配慮した教具で、これも活用しています。

児童の学びをより豊かにするための方法について、いろいろと取り組みながら研究をしているところです。





個に応じた個別最適な学び

学校の授業では、同じ教材で、同じ方法で、みんなで一緒に考える、という「一斉授業」を行うことが多いです。全員で共通の課題をもって取り組めることが一斉授業のよさですが、今の時代は、個々の興味や個々の考え方を尊重して、それぞれが学び方を考えることも大切にしています。

今回の算数の授業では、台形の面積の求め方を公式にすることを考える場面がありました。児童は、「図形を切り取って実際に動かす方法」、「タブレットを使って線を引いて考える方法」、「ワークシートに書き込みながら考える方法」と、3つの異なる方法の中で自分に合った方法で考えるという取組を行いました。子どもたちは自分で選んだ方法で、一生懸命考えている姿が見られました。



台形の面積の求め方について、3通りのそれぞれの方法で考える子どもたち

また、半田市の支援を受けて、デジタル教材「Qubena (キュービナ)」や「e-ライブラリ (イーライブラリ)」といったドリル教材を活用して、短い時間で繰り返し問題に取り組む時間を算数の時間では取り入れるようにしています。

デジタルドリルのよさは、解いた問題を教師が一人一人〇付けをしなくても、自動で採点がされること、問題を解けば解くほど、一人一人の苦手になっている問題を重点的に出題してくれるようになることなどです。

これらのデジタルドリルを活用することによっても、個々の学習理解に応じた適切な学習課題が与えられるという「個別最適な学び」の実現に効果があると考えています。今後は、デジタルの利点をうまく活用しながら、家庭学習でもデジタル教材を活用した学習が行えないか考えていき、児童へのよりよい指導方法について、引き続き研究していきたいと考えています。

